

### お知らせ

## 平成25年度地域づくり交流会が開催されます。

平成26年1月22日(水)に地域づくりに取り組む住民組織や市町村・県の職員等が、それぞれの経験や課題を話し合い、今後の取り組みのアイデア等を考え、今度の地域づくりに活かすために参加相互の意見交換・交流を行います。入場無料なので奮ってご参加下さい。(まちづくり推進課HP <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>)

### 入場無料 平成25年度地域づくり交流会

地域づくりに取り組む住民組織や市町村・県の職員等が、それぞれの経験や課題を話し合い、今後の取り組みのアイデア等を考え、今度の地域づくりに活かすために参加相互の意見交換・交流を行います。

日時:平成26年1月22日(水)10:30～15:30(開場10:00)  
場所:郡山市ニコニコ子ども館(郡山市役所脇、郡山市桑野1-2-3) 3F研修室



#### 講師プロフィール

**島村 菜津(しまむらなつ)**  
ノンフィクション作家。福岡県出身。東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。10数年にわたる取材を元にしたイタリアの食に関する『スローフードな人生!』(新潮社)が話題になり、日本の『スローフード』の先駆者の取材・紀行を題材に、著作や書籍等多数。最近、『スロウシティ』(光文社)や『スローな未来へ』(小学館)などライフスタイルや地域の宝を生かした地方活性化など新しい分野にも挑戦している。

#### 参加対象者

- 行政(県、市町村)
- まちづくり団体
- 商工団体
- まちづくりに興味のある方等

どなたでも参加できます。  
第1部のみの参加でもOKです  
のでお気軽にご参加下さい。

#### プログラム

■第1部 講演会  
10:30～11:30 基調講演  
演題 『人間中心のまちづくり』  
講師 島村菜津氏(ノンフィクション作家)  
11:30～11:45 地域づくり車座インタビュー  
結果報告  
昼食(各自 11:45～13:00)

■第2部 交流会 ※概要は裏面のとおりです。  
13:00～15:00 グループ討議  
15:00～15:30 全体会

※プログラムは変更になる場合があります。 問い合わせ、申し込み先は裏面をご覧ください。

主催:平成25年度地域づくり交流会運営委員会  
(福島県、福島大学つくしまふくしま未来支援センター、(公財)福島県区画整理協会、福島県都市計画協会)

### 交流会(第2部の概要)

下記①～④の分野毎に、まちづくりの悩みや成果を話し合い、アドバイザーを交えて今後の取り組みに参考になるような話し合いをします。

全体会コーディネーター:佐藤彰彦氏(福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任准教授)

#### ①グループ「中心市街地の活性化(商店街の活性化)」

アドバイザー: 箭内裕二郎氏(株)福島まちづくりセンター 事業部長  
阿久津昌生氏(会津まちづくり応援隊会長)

#### ②グループ「中山間地の活性化」

アドバイザー: 島村菜津氏(ノンフィクション作家)  
関元弘氏(ふくしま農家の夢ワイン(株)取締役)  
佐藤義弘氏(喜多方市企画政策課過疎地域集落対策室室長)  
高木亨氏(福島大学つくしまふくしま未来支援センター特任准教授)

#### ③グループ「歴史・景観を生かしたまちづくり」

アドバイザー: 土方吉雄氏(日本大学工学部建築学科准教授)  
金親丈史氏(NPOまちづくり喜多方理事)

#### ④グループ「観光によるまちづくり」

アドバイザー: 横田純子氏(つむぎ企画代表、NPO素材広場理事長)  
吉田樹氏(福島大学経済経営学類准教授)

※グループ討議の際、それぞれの話題提供のための地域の自慢のもの(食べ物、写真、地域のマップ等...)があれば、当日お持ち下さい。

参加申込書 送付先: 福島県土木部まちづくり推進課 小水行き FAX024-521-7956  
申込締切:1月15日(水) メール machizukuri@pref.fukushima.lg.jp

氏名	所属団体	連絡先		参加希望(希望箇所に○)				
		電話番号	Eメール	第1部のみ	第2部(希望分野に○)			
					①	②	③	④

第2部に参加する場合は、当日話し合いたい内容を簡単に記載して下さい。

申し込みの際に提供いただいた個人情報、本交流会以外には使用いたしません。なお、第2部の参加人数によっては、グループの振り分けが変わる可能性がありますのでご了承下さい。

問い合わせ先: 福島県土木部まちづくり推進課 小水(こみず) TEL024-521-7511

### まちなか回遊策について



◆ はじめに **ふくしまから"元気"はじめよう。**  
白河市は、県内で唯一「中心市街地活性化基本計画」及び「歴史的風致維持向上計画」の2つの認定を受け、中心市街地活性化や歴史・文化を活かしたまちづくりを進めています。(全国でも2つの認定を受けているのは14市\*のみ)

また、県では「元気ふくしま、地域づくり・交流促進事業」により、地域住民の方々や市と連携し、ハード・ソフト両面から事業を実施しています。

平成25年9月21日～22日の「ご当地キャラこども夢フェスタ in 白河」には県内外から多くの方が訪れることから、白河市でこれまで行われてきたまちづくりに触れていただくとともに、白河を訪れるリピーターを獲得する絶好の機会であるため、県南建設事務所や市及び関係機関と連携し、来場者にまちなか回遊を促す社会実験を行いました。（来場者数は、目標80,000人に対し105,000人でした）

★開催概要はこちら <http://gotouchi-chara.jp/shirakawa2013/index.html>

※14市→弘前市、鶴岡市、白河市、川越市、小田原市、長野市、金沢市、高岡市、岐阜市、長浜市、津山市、松江市、山鹿市、日南市

#### ◆ 主な取組内容

- ①案内マップの作成・配布
- ②車両通行止（歩行者天国）の実施
- ③楽蔵（らくら）ステージの実施
- ④商店街との連携
- ⑤まちなかツアーの実施

#### ◆ 主な効果と課題

まちなかではマップを持って歩

く人が多く見られ、スタンプラリーを実施したこともあって、多くの子どもたちもマップを見ながら歩いていました。

まちなか会場を小峰城趾会場やイベント広場会場と一体的にPRしたことで、多くの方がまちなかへ足を運び、まちなかを知っていただくことができたと考えています。

また、道路を歩行者天国としたことで、シャトルバスが白河駅近くまで来ることができ、来場者の利便性が図られたほか、飲食ブース設置や人力車運行、キャラとの触れあい、ステージ間へのスムーズな移動が可能となりました。

一方、行列ができた店舗があるなどの経済効果があったものの、会場から離れた店舗からは人が流れてこないとの意見もあり、会場から離れた箇所への回遊が課題となりました。

#### ◆ まとめ

今回のまちなか回遊実験は、実質約2ヶ月という短期間で関係者の多大な協力のもと実施したのですが、一定の効果はあったと考えています。また、実施してみて新たな課題が発見できたことも効果の1つといえます。

今回の結果の今後のまちづくりに活かすとともに、各種イベントやディステーションキャンペーンに活かしていきたいと考えています。





# “「まちなか商業」復興・再生フォーラム” が開催されました

平成25年10月21日（月）に“「まちなか商業」復興・再生フォーラム”が福島市の福島テルサで開催されました。

## ◆ 長坂泰之氏の講演

第一部では、主催者である県の星商工労働部長よりあいさつの後、独立行政法人中小企業基盤整備機構（中小機構）震災復興支援部 参事 長坂泰之氏より「まち・商業の再生に向かって」～現状、悩み、そして未来へ～と題し講演いただきました。

中小機構の取組や、長坂氏が支援に関わる岩手県大船渡市・陸前高田市の復興の現状の紹介の後、阪神大震災の教訓なども踏まえ、再生・復興の留意点などをお話いただきました。

そのほか、兵庫県尼崎市の商店街での「メイドインアマガサキ」の取組では、活動の原点は、地域の強みを磨くこと。「自虐的なまちから諧謔的（ユーモア）にとらえてまちづくりができれば」と、まちづくりを楽しみ、様々なアイデアが次々と出て、まちに住む人・まちで働く人の気持ちを変えていくといった事例の紹介があり、福島のイメージ回復は難しい部分もあるが、あきらめてしまったらおしまい。

商業者としては、

- ・ モノを売る時代からコトを売る時代
- ・ 自らの店を磨くとともに、みんなで団結して行動する必要がある

などの話がありました。

## ◆ 村瀬正尊氏の講演

次に、一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス（AIA）理事村瀬正尊氏より「遊休不動産利活用によるまちなかの新陳代謝の事例から」と題し講演いただきました。

AIA とまちづくり会社が、まちづくり会社運営のための事業を開発し、会社を運営していくための事業モデルを確立している事例や、空きビルをリノベーションし、投資回収していく事例などが紹介されました。

まとめとして、まちなかには、

- ・ 新規起業しやすい環境に変えていく
- ・ 事業を営み稼げる担い手をいかに見つけ出すか
- ・ 新陳代謝を促進して新たな価値を創造していくことが重要であるとのお話がありました。

**「まちなか商業」復興・再生フォーラム**  
～まちの復興に向けたやる気から実行への第一歩～

高店街やまちの賑わい劇出、活性化については、東日本大震災以前からの課題でした。震災後、これらの取組の継続が困難な状況に置かれている地域もあるなか、復興への取組を後押しし、今後の具体的なかつ持続的な活動につなげることを目的として、フォーラムを開催します。

**第1部 会場 FTホール 時間 13:00～16:00**

**講演**

「まち・商業の再生に向かって」～現状、悩み、そして未来へ～  
長坂泰之氏  
独立行政法人中小企業基盤整備機構 震災復興支援部参事

「遊休不動産利活用によるまちなかの新陳代謝の事例から」  
村瀬正尊氏  
一般社団法人エリア・イノベーション・アライアンス 理事

**パネルディスカッション**

コーディネーター 長坂泰之氏 / 村瀬正尊氏 / 長野剛氏 / 次田晋正氏 / 伊藤百合子氏

**第2部 意見交換会(事前申込要・チラシ裏面参照) 時間 16:00～16:30**

**日時 10/21 平成25年 13:00～16:30 (12:30開場)**

**場所 福島テルサ 福島市上町4番25号**

**対象 どなたでも参加できます。**

主催：福島県、財団法人自治総合センター  
後援：総務省、福島県商工会議所連合会、福島県商工会連合会、福島県中小企業団体中央会、福島県商店街振興組合連合会

申込及びお問い合わせ 福島県商工労働部商業まちづくり課 TEL.024-521-7299 FAX.024-521-8886



◆ パネルディスカッション

その後、コーディネーターとして長坂参事、パネリストとして村瀬理事、南相馬市栄町商店街振興組合の片山理事長、NPO 法人まざっせ KORIYAMA 次田副理事長、福島大学経済経営学類小山准教授・小山ゼミ生の伊藤さんが参加し、パネルディスカッションが行われました。

～まちの復興に向けたやる気から実行への第一歩～をテーマとし、片山理事長、次田副理事長、小山准教授、伊藤さんからは、これまでの取組状況（現状や悩みなど）紹介の後、復興・再生に向けての思いを話していただきました。村瀬理事からは、若い人、人材をどう地域の中で根付かせていくか、地域の中で仕事を作っていくかが重要との話がありました。



◆ 意見交換会

第二部は、講師・パネリストの方々と交え意見交換会。

商業関係者、NPO の方等、熱心な方々が参加され、限られた時間でしたが、活発な意見交換会となりました。後半は、自由に名刺交換をしていただき、講師の方々をはじめ、県内各地域で活動されている方々同士で交流を深めていました。他の地域の取組を参考に、自分たちの取組に活かしたいとの声がありました。



《商業まちづくり課》

## 豊間・薄磯震災復興土地区画整理事業起工式

平成25年12月15日に豊間・薄磯両地区の震災復興土地区画整理事業の起工式が執り行われました。

◆ 浜通りの復興まちづくり

浜通りの復興まちづくりについては、今般の未曾有の津波災害の教訓を踏まえ、ハード・ソフトの施策を組み合わせた「多重防御」による「総合的に防災力が向上したまちづくり」を推進するため、県が行う海岸堤防の嵩上げや防災緑地等の整備と、市町が行う住居を高台等へ集団移転する防災集団移転促進事業や土地区画整理事業等を一体的に進めているところです。

(表：福島県ホームページより被災市街地復興土地区画整理事業進捗状況)

福島県 津波被災地の復興まちづくり事業進捗状況一覧

被災市街地復興土地区画整理事業進捗状況					2013/11/30現在
市町村名	地区名	面積 (ha)	事業計画認可	工事着手 (見込み)	備考
新地町	新地駅周辺	23.7	H25.11.12	(H26. 2月)	
いわき市	久之浜地区	28.3	H25.2.6	H25. 10月	
	薄磯地区	37.2	H25.2.20	H25. 11月	
	豊間地区	56.4	H25.3.13	H25. 11月	
	小名浜津背後地区	11.7	H24.4.18	H25. 10月	業務系(住居なし)
	小浜地区	4.3	H25.6.10	H25. 10月	
	岩間地区	11.6	H25.2.21	H25. 10月	
合計	7地区	173.2			

◆ 豊間・薄磯震災復興土地区画整理事業

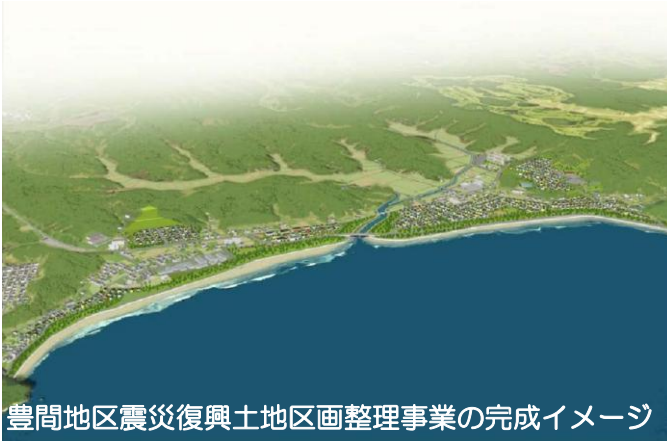
豊間・薄磯地区の復興まちづくり計画においては、土地区画整理事業による原位置再建の方針のもと、震災直後からいわき市と地元協議会が協力して計画案の検討に取り組みされてきたところであり、震災から2年9ヶ月余りを経て、起工式の節目を迎えました。





事業実施に当たっては、いわき市が UR 都市機構へ事業委託を行っています。また、土地区画整理事業地内に県が整備する防災緑地及び道路についても、UR 都市機構と受委託契約を締結し、残土の活用も含め効率的な事業を実施していきます。

現在、基礎撤去が進められており、今後本格的な工事が開始され、平成28年度末には新たな住宅区画が整備される予定です。



豊間地区震災復興土地区画整理事業の完成イメージ



薄磯地区震災復興土地区画整理事業の完成イメージ

## 小名浜港背後地震災復興土地区画整理事業起工式

平成25年12月18日にいわき市小名浜地内で、小名浜港背後地震災復興土地区画整理事業の起工式が執り行われました。

### ◆ 小名浜港背後地震災復興土地区画整理事業

小名浜港と市街地の中間地帯にある貨物ターミナル周辺を「小名浜港背後地」といい、小名浜のまちづくりの課題として、アクアマリンふくしまを含むアクアマリンパークに訪れる年間約300万人の観光客の一部を既成市街地に誘導する検討がなされてきました。

平成22年11月に策定された「小名浜港背後地開発ビジョン」に基づき、この用地を「都市センターゾーン」と呼び、市が行う区画整理により、アクアマリンパークと一体となって魅力ある都市拠点を整備し、市民と観光客の出会い・交流や回遊の起点となることが期待されました。しかし、震災により小名浜港背後地も大きな被害を受け、事業が中断されました。

このため、津波被災によりその重要性が認識された避難路等の整備を行う「津波復興拠点整備事業」を追加し、震災復興土地区画整理事業として再度計画されました。

本事業では貨物ターミナルの移転のほか、都市計画道路の整備や国・県合同庁舎などの施設が整備されます。

県においても小名浜の新たなシンボル軸として、市街地から小名浜港まで直結させる「都市計画道路平磐城線」の整備などを市と一体的に進めていきます。

また、都市センターゾーンには民間複合商業施設の整備が計画されていて、開発協力者としてイオンモールと市がパートナー協定を締結しています。



起工式：佐藤達雄県土木部都市担当次長

今後は平成28年3月の全体完成に向けて整備が本格化することとなり、商業・サービス・行政などの多様な機能を有する都市拠点整備されることにより、観光地に新たな魅力が加わり、これまで以上の賑わいが期待されています。



小名浜港背後地開発ビジョン



小名浜港背後地周辺も含む復興イメージ

## ひさのはマリンについて

### ◆ ひさのはマリン

「ひさのはマリン」は、久之浜第一小学校の子供達たちが考えたキャラクターです。平成25年6月から7月にかけて久之浜第一小学校5・6年生の総合学習「久之浜防災緑地について考えよう」という取り組みの中で、久之浜の活性化を「ゆるきゃら」と子供たちが考え誕生しました。

久之浜といえば海で、海は英語でマリンと言うので「ひさのはマリン」となりました。

これを見た大人たちが、子供たちの夢を少しでも形にできればと久之浜商工会が中心となりカンバッチを作成しました。“久之浜浜風商店街”にて配布しています。料金は「お気持ちで…」。収益金で着ぐるみや今後のPR活動等の展開を計画しているところです。



### メールマガジン登録随時受付中!!!

登録された方には、県内外のまちづくりに関する情報のほか、イベントなどのお役立ち情報をメールにてお知らせいたします。

メールマガジン（無料）の登録をご希望される方は



1. 団体・会社名
2. 氏名
3. メールアドレス

1～3を記入の上、[まちづくり推進課のメールアドレス machizukuri@pref.fukushima.lg.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.lg.jp)まで希望する旨ご連絡下さい。

【発行元】 福島県土木部まちづくり推進課  
 〒960-8670 (住所記載不要です)  
 TEL 024-521-7511  
 FAX 024-521-7956  
 e-mail [machizukuri@pref.fukushima.lg.jp](mailto:machizukuri@pref.fukushima.lg.jp)  
 URL <http://www.pref.fukushima.jp/machi/>